

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回弘前市社会福祉問題対策協議会
開 催 年 月 日	令和6年11月19日(火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時30分 から 15時00分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	中村 直樹
出 席 者	会長 中村 直樹 委員 大湯恵津子 委員 藤田 俊彦 委員 阿保 博実 委員 稲村 孝司 委員 森山 正 委員 小林 雅也 委員 松村 浩二 委員 齋藤 ひろみ
欠 席 者	委員 坂本 祥一 委員 小川 幸裕 委員 三上 美知子 委員 八木橋 喜代治 委員 崎野 雅生
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	福祉部長 秋元 哲 福祉総務課長 秋田 美織 同課長補佐 金川 浩人 同主幹兼係長 滝口 龍之介 同主事 坂口 真理
会 議 の 議 題	・弘前市地域福祉計画の進捗状況について ・重層的支援体制整備事業について
会 議 結 果	別紙会議録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	令和6年度第1回弘前市社会福祉問題対策協議会資料

<p>会議内容 (概要) 事務局</p>	<p>1. 開会 2. 会長挨拶 3. 報告</p>
	<p>(1) 弘前市地域福祉計画の進捗状況について 報告（1）資料に基づき、報告。</p>
<p>松村委員</p>	<p>【主な質疑応答】 ◎基本目標1について ・課題にある広報活動についての意見だが、若い年代の方はネットを使った情報収集が主であるため、上手く活用できると若い世代にも届くのでは。社会状況の変化に合わせて課題を的確に捉えていると感じた。</p>
<p>議長</p>	<p>・片方向からだけの情報発信にならないような取り組みが出来る方が良い。例えばプッシュ型の通知や、どこにアクセスするとその情報に届くか示すなど、若い年代の人たちに情報が届く仕組みであれば良い。</p>
<p>松村委員</p>	<p>・クイズ形式や、弘前の情報を集めてポイントを獲得出来る、などといった返事が返しやすいものだと良いのでは。</p>
<p>事務局</p>	<p>・今年度からは広報発行回数減少を補完するツールの一つとしてラインの運用も始まっている。まだ開始されて間もないため今後注目していただきたい。</p>
<p>小林委員</p>	<p>◎基本目標2について ・1%システム支援事業について、新規事業の分野の内訳はどういったものか。</p>
<p>事務局</p>	<p>・詳細なデータは手元にないため今はお答えできないが、まちづくりや地域による交流イベントが主なものであったと認識している。</p>
<p>小林委員</p>	<p>・1%システム支援事業の分野は多様であるため、分野ごとの件数や、伸びなどが分かるものがあると担当課でもその情報を生かせるのではないかと感じた。</p>

松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にある市民意識アンケートによる協働に対する認知度が「10%～13%」とあるがどこを目指しているのかが不明であったため、どのように評価したら分からなかった。また、この1%システム支援事業を主体となって行う人は年々増えるものでもないと感じる。何か他の指標と合わせて考えることで、効果のある事業を行うことが出来るのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・直接の指標ではないかもしれないが、市民町会、学生企業と行政がお互いに連携し、協力し合いながらまちづくりに取り組んでいると思う市民の割合で考えると、目標値は40%程度であるため、まだ低い水準にある。後半のご意見については参考にさせていただく。
<p>◎「高齢者ふれあい居場所」の開設数について</p>	
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、評価指標の件数が減少したと思われる。こういった高齢者の居場所は持続可能性も必要な一方で、地域の中にすでに存在しているものを掘り起こす取り組みが継続的に行われることも必要なのではないか。生活支援コーディネーターの活動を進める中では、そういった掘り起こしの取り組みも重要である。
松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所の具体的なイメージはどんなものか。こういった建物で行われ、居場所として何か集まりが開催されるとして、その頻度などはどういったものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には個人の住宅や集会所などで、週に数回集まるようなイメージ。地域の人がいつでもその場所に集うことが出来るというものが「居場所」であり、市がその居場所づくりを支援していく。
阿保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町会の餅つき大会といったイベントなどを通し、地域の方々と触れ合う機会を増やし、災害時などに支援が必要な方の情報などを共有していきたい。また近年希薄化している近所同士の関係を、昔のような強い繋がりを取り戻そうという方向性で町会連合会としては考えている。

大湯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者のための居場所づくりは自分の地区では毎月行っている。自分の地区では集会所があるからよいが、自宅で行っている地区もある。適した場所があっても行くことが困難な場合もあるため、居場所づくりをするためのそもそもの場所探しが大変だと感じている。
森山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人たちの話を聞くと、電話一つにしてもハードルが高いと感じている。災害時のことなどを不安に思う人が多いと思うので、高齢者の居場所づくりがそういった不安を抱えている人が市など相談できる機関につながりやすくなるきっかけとなればよいと思う。
藤田委員	<p>◎基本目標 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会、公民館、学校やPTAなどを全部一緒にして捉えてよいのか。ボランティアの活動範囲は自分の住む地域に限定した話なのか。ボランティア活動の裾野を広げるための取り組みや計画が見えにくく、目標値を達成させるためにどういったことをするのか分かりにくい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標の分類については、基本的には町会、公民館、PTAなどいずれかの活動に取り組んでいればアンケートの設問には「はい」と答えることになっている。また、活動範囲については市に限定する。 <p>拠点については令和4年度に市のボランティアセンターと弘前市社会福祉協議会が統合しヒロロに設置されており、そこでボランティアの掘り起こしなど、裾野の広げ方を開発していく予定である。また、ボランティアポイントについても方向性を検討している。</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーの方なども、有償だが地域への関わりといったところで件数に含めるかご検討願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討します。
稲村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の草刈りや運動会などのイベントに、人が中々集まらない。保護司もボランティアの一種だが、昔は定年退職後の元公務員の方などが担っていたが、現在は再雇用の人が多い。防災マイスターの数も減少しており、地域のつながりが時代とともに希薄化しているのは課題であると感じている。

<p>松村委員</p>	<p>・ボランティアは楽しさも大事。ボランティアをすることで近所の人たちとの会話も生まれる。また、ボランティア活動を主催する企業が増えるとよいと思う。例えば市外に本社がある会社など、従業員の方がボランティアすることで地域の方々と交流できる場となり、社員の方々のモチベーションアップなどにもつながるのではないかな。</p> <p>◎基本目標4について 意見・質問等は特に無し。</p>
<p>森山委員</p>	<p>◎地域福祉計画全体を通して</p> <p>・ボランティアをされる側も、何かをしてもらうことに慣れていないと、どう反応していいかわからない人もいる。ボランティアする側の人も感謝される方がやりがいを感じると思うため、ボランティアされる側も感謝の気持ちを表現することが大事であると考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 重層的支援体制整備事業について 資料に基づき説明。</p>
<p>小林委員</p>	<p>・秋田県の北秋田市では地域福祉トータルケア推進事業というものを行っており、分野横断型で1つのプラットフォームで解決していくという仕組みである。そういったものが社会福祉法の改正に伴って自治体に落とし込まれてきたと考える。社会福祉士も若手が少ないという状況にある。実務経験のある現場に精通した年代の有資格者の方々を巻き込んで、弘前市にどのような取組をする必要があるかについて歩調を合わせて進めていければと考える。</p>
<p>議長</p>	<p>・重層的に色々な課題に取り組むことは必要であり、福祉だけでなく防災の観点やその他様々な課題について包括的な取組は今後も重要になると思われるため、社会福祉協議会や町会などと各団体と協力して検討していければと考える。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>・重層支援体制整備事業の背景にあるヤングケアラーや8050問題について、弘前市で実際にどういった問題が起きていて、どのような取組をしてどういった結果になったのかが分かると良い。福祉問題に対しての仕組みの方向性だけでなく実際に起</p>

事務局	<p>きている問題を共有できたらと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討いたします。 <p>協議会の会議録を HP で公開することを説明。次回の開催は令和7年春頃とする。</p> <p>< 散会 ></p>
その他必要事項	傍聴者：報道機関 1名